

令和元年度 第1回 学校運営協議会 議事録

日時 令和元年 7月 5日

場所 枚方津田高校 校長室

出席者

協議会委員 久保田豊司（会長） 西村孝彦（副会長） 山寄剛史 鈴木世志子 立溝和枝
学校長 加島良彦
事務局 松浦浩 坂東貴博 寺本浩伸 佐藤正弘 橘守亮 吉村信人

平成 31 年度学校経営計画及び平成 30 年度学校評価について

昨年度の第 3 回協議会で承認された学校経営計画、学校評価の確認。

平成 30 年度進路状況

大学・短大の入学定員厳格化の影響もあり、全体的に例年に比べて厳しかったが、公立大学や医科大看護学部、公務員などに合格した。

新学習指導要領への対応（移行措置）について

「総合的な探求の時間」（1 年生）の計画について説明。

協 議

- ・資格検定や課題提出などの「must」でやっている部分と、自らやりたいことを自由に取り組む「will want」の部分が両輪として存在する。基礎力をつけたあと主体性を持って進むための転機となるのが「will want」の部分である。
英語学習については、「探究の時間」と「英語コース」をコラボレートして、英語でプレゼンテーションするとか、自由に英語を話せる空間（グローバルタウン）を作るとかの工夫ができる。大学から卒業生を派遣するなど、大学とのタイアップを図り「will want」を刺激することが可能である。
- ・中学校では授業改善の一環として学期に一回、全教員が 1 つの授業を見学して、研究協議している。家庭学習を単なる宿題ではなく課題以上のものを主体的に仕上げるものとしてとらえている。
- ・高校選びでは、進路実績などの「高校卒業後どうなっていくのか」の評価が大きい。大学でも入学した学生がどのようなスキルを身に着けたのかを測る認証評価が導入されつつある。
- ・ICT 機器について、インタラクションやプレゼンテーションなら電子黒板でなくてもプロジェクターで十分機能する。ICT 機器を「どう活用して何をするのか」を明確にする と同時に、現状の設備でもできることを整理する必要がある。また、今後 ICT 機器としての携帯電話の活用が重要視されそうである。
- ・働き方改革の中、少ない人員でいかに成果を維持するのかを考えて中長期計画を立てることがこれからの課題。
- ・卒業生からの寄付など、外部資金の獲得も検討すべきではなからうか。